



2025年12月22日

各 位

会社名 株式会社 P L A N T  
代表者名 代表取締役社長 三ツ田 泰二  
(コード番号: 7646 東証スタンダード)  
問合せ先 上席執行役員経営戦略室長 平田 憲昭  
TEL 0776-72-0300

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート版）」の  
公表について

当社は、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する進捗状況ならびに今後の取り組み内容等をアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート版）」をご覧ください。

以 上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について  
(アップデート版)

2025年12月22日



# ◆現状分析と対応

- 各施策／資本コストを意識した経営でROE改善
- PBRも23年9月期より改善は進んでいるが依然1倍を下回っている状況

## ▼現状と課題

### PBR:改善するも 1倍割れ

2023年9月期 0.40倍  
↓  
2024年9月期 0.73倍  
↓  
2025年9月期 0.78倍

### ROEは株主資本 コストを上回る

2023年9月期 1.2%  
↓ 減損調整後8.0%  
2024年9月期 2.4%  
↓ 減損調整後10.4%  
2025年9月期 9.0%

WACC = 5.44%  
株主資本コスト = 7.25%  
2025年9月期末時点当社算出

## ▼対応

### PBRの改善

### ROEの改善



### PERの改善

- 資本コストを上回る経営意識
- 各施策の徹底度向上

- IR活動の強化
- 成長戦略の策定
- コーポレートガバナンスの強化

# ROEの改善

- 各種施策徹底、迅速に外部環境変化へ対応できる組織への対応
- 2026年9月期は惣菜等の差別化商品強化等を行いROE9.6%達成を目指す

## ▼課題

### ROE

2025年9月期9.0%



2026年9月期目標9.6%

## ▼対応

### 当期純利益率

25年9月期：1.38%

目標1.54%

II

### 当期純利益

- PB商品開発体制強化
- 粗利率の改善
- 開発/宣伝/販売施策

2025年9月期:1,345百万

2026年9月期  
目標1,530百万円

÷

### 売上高

- 販売体制の強化
- 商販宣連携する組織
- 差別化商品の育成
- デジタルマーケの取組み

2025年9月期:97,764百万

2026年9月期  
目標99,000百万円

### 総資産回転率

25年9月期：2.59回転

目標2.67回転

II

### 売上高

- 販売体制の強化
- 商販宣連携する組織
- 差別化商品の育成
- デジタルマーケの取組み

2025年9月期:97,764百万

2026年9月期  
目標99,000百万円

÷

### 総資産

- 在庫の適正化
- 収益性を意識した設備投資

2025年9月期:37,697百万

2026年9月期  
目標37,000百万円

### 財務レバレッジ

25年9月期：2.53倍

目標2.34倍

II

### 総資産

- 在庫の適正化
- 収益性を意識した設備投資

2025年9月期:37,697百万

2026年9月期  
目標37,000百万円

÷

### 自己資本

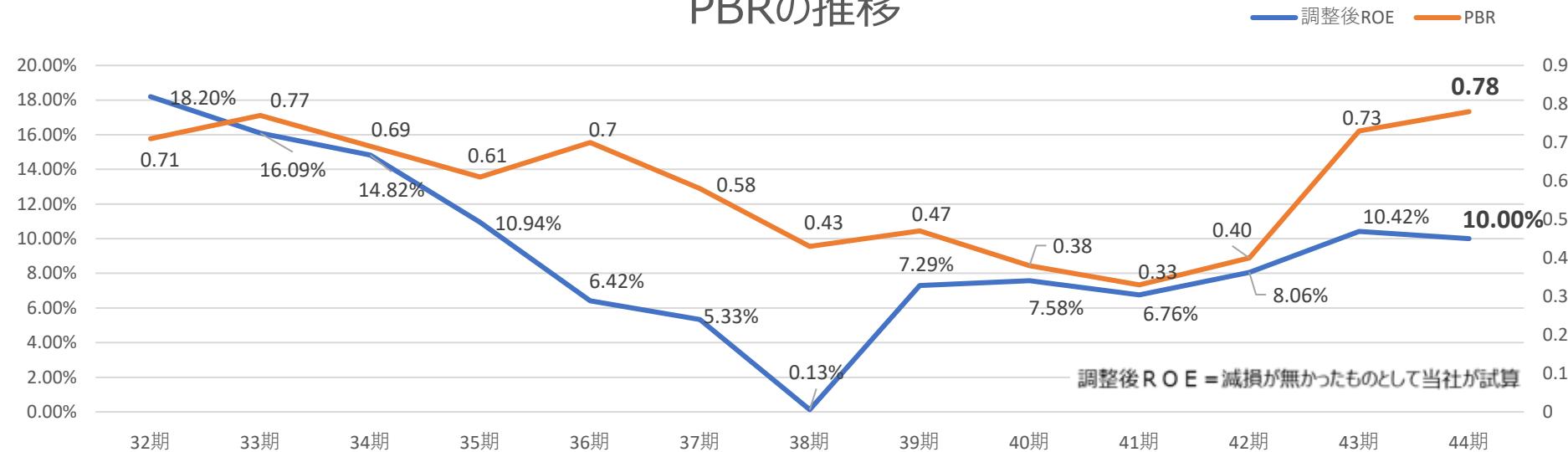
- 配当
- ※総還元性向 30%以上

2025年9月期:14,854百万

2026年9月期  
目標15,792百万円

## ◆現状分析

## PBRの推移



実績と目標	2020年9月期(39期)	2021年9月期(40期)	2022年9月期(41期)	2023年9月期(42期)	2024年9月期(43期)	2025年9月期(44期)
PBR	0.47倍	0.38倍	0.33倍	0.40倍	0.73倍	<b>0.78倍</b>
ROE (減損調整後)	7.29%	7.58%	6.76%	8.06%	10.42%	<b>10.00%</b>
PER	6.4倍	5.0倍	4.9倍	5.0倍	7.0倍	<b>7.8倍</b>

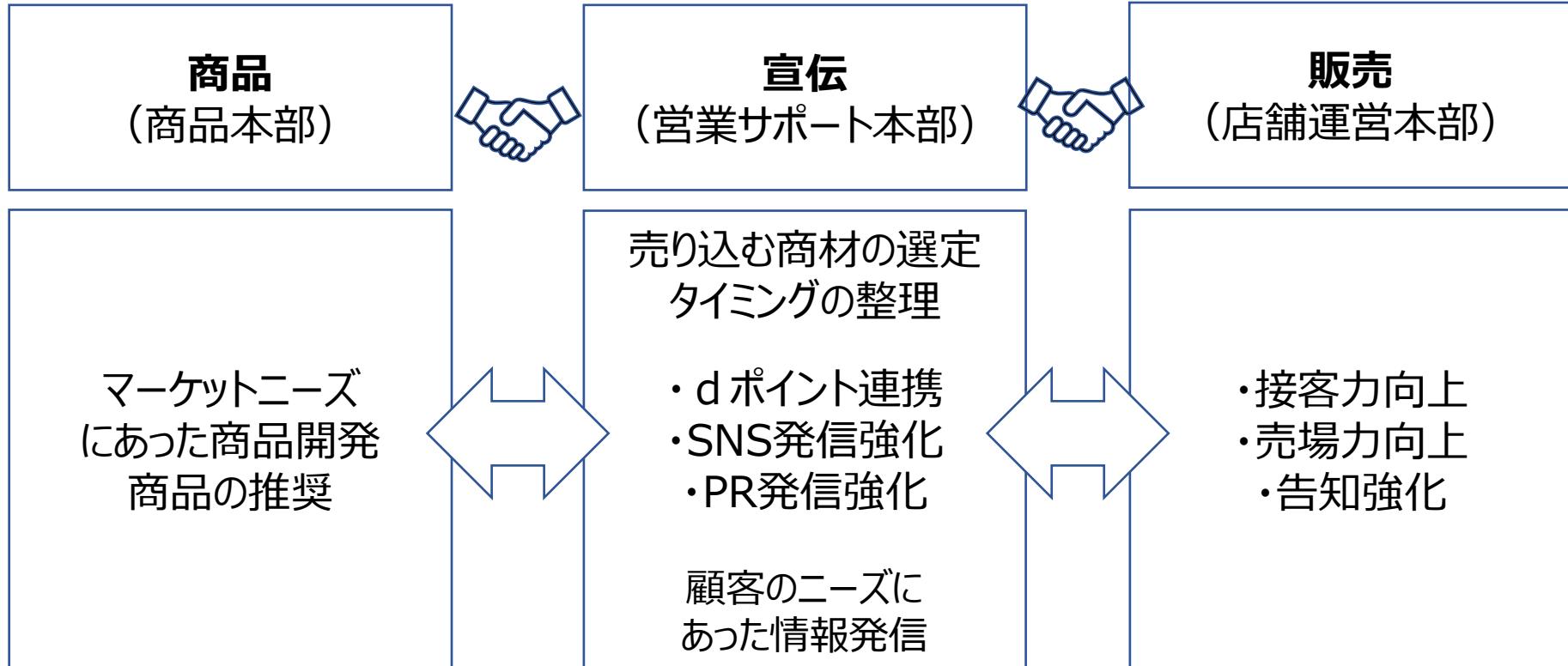
## KPI (アップデート)

		2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期				2026年9月期
決算年月		実績	実績	実績	期首計画	実績	評価		目標
売上高	(百万円)	95,331	97,548	98,585	97,800	97,764	×	業績計画未達	
営業利益	(百万円)	1,448	1,569	2,128	2,450	2,006	×	上半期での粗利率マイナスが大きく影響	
当期純利益	(百万円)	324	183	365	1,700	1,345	×	上半期での粗利率マイナスが大きく影響	
純資産額 (※期中平均)	(百万円)	15,737	15,744	15,031	15,571	14,854	△	自己資本比率41.3%、ほぼ計画通り	
ROE	(%)	2.1	1.2	2.4	10.9	9.0	△	株主資本コスト(6.8~7.7%)を上回る水準だが目標未達	
ROE (※特別損益を除外)	(%)	6.8	8.1	10.4	10.9	10.0	△	株主資本コスト(6.8~7.7%)を上回る水準だが目標未達	
PBR	(倍)	0.33	0.40	0.73	-	0.78	×	改善するも1倍には至らず	
1株あたり純資産額	(円)	1,981	2,027	2,084	-	2,219		純利益により増加	
期末株価	(円)	647	802	1,515	-	1,670	×	上昇しているものの、PBR1倍に至る株価には未達	
年間配当金額	(百万円)	175	247	353	517	517	○	1株当たり年間配当額75円は過去最高額	
総還元性向※	(%)	16.5	32.5	105.8	30.0	34.9	○	配当で計画を上回る	
DOE	(%)	1.1	1.6	2.4	3.3	3.5	○	計画通りの結果	

※配当性向、総還元性向については特別損益を除外した当期純利益より算出

# 売上改善にむけて（販売力の強化）

- ・2023/9期：各本部/店舗の優先順位やベクトル合わせなど、仕事の進め方変更に着手
- ・2024/9期：いこっさ！福井フェアなどの部門横断プロジェクトの成功事例が生まれる
- ・2025/9期：実行力をさらに高めるため組織変更を行い改革を継続



18万アイテム以上の豊富な品揃えは当社の強みである一方、  
お客様に商品の良さを伝えきれていないことが課題

2023/9期より、商品・販売・宣伝の連携を強化

惣菜部門の塩唐揚げや酢豚は取組み前の3倍の販売で推移するなど成果が顕在化  
このような成功体験を一つひとつ積み重ね組織力の強化・売上利益の改善に繋げていく

# 投資者との対話

## 個人投資家様

- ・株主総会後に開催する「おもてなし企画」の場で株主様の声を直接ヒアリング  
※PB商品展示会・試食会
- ・株主優待の拡充  
株主様ご優待カードの導入
- ・個人向けIR活動の再開検討

## 機関投資家様

- ・年2回開催のオンライン決算説明会に社内取締役全員が参加
- ・WEBでの1on1ミーティングには取締役が積極的に対応
- ・2024年9月期第2四半期以降、短信（サマリー）を英文で開示

# 株主還元

- ・株主還元方針：原則、総還元性向30%以上（44期：総還元性向38.5%）

44期実績  
(2025年9月期)  
総還元性向38.5%

- ・配当：1株あたり年間配当額75円（過去最高）  
(配当総額、517百万円)
- ・総還元性向（配当性向）：38.5%

45期計画  
(2026年9月期)  
総還元性向30%以上

- ・配当：1株あたり年間配当予想額95円  
※中間40円、期末55円（配当総額655百万円）
- ・総還元性向（配当性向）：42.8%予想

# コーポレートガバナンス強化

- ・社外取締役：2016年以降2名を維持  
(2019年以降、取締役の1/3以上を維持)
  - ・女性取締役：2016年以降1名を維持
  - ・任意の指名報酬委員会設置（2020年）：過半数が社外取締役、委員長が社外取締役
  - ・スキルマトリックス：2023年より株主総会招集通知へ記載
  - ・取締役の実効性評価アンケート実施：2021年以降毎年実施
- 
- ・今後もコーポレートガバナンスの強化に取り組む



本資料は、投資家の皆様に当社についての理解を深めていただくことを目的として作られたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料中の業績予想等に関する記述につきましては、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績は、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。

実際の業績等は、経営環境の変動、不可抗力等によって大きく異なる可能性がございますのでご注意下さい。